



国土交通省道路局長 様

篠建設第74号の2  
平成19年5月9日

兵庫県篠山市長 酒井 隆



### 中期的な計画作成に伴う意見の提出について（回答）

平素は、道路事業の推進につきまして、ご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、平成19年4月2日付、国道企第114号で依頼のありました標記の件について

別紙のとおり回答します。

## 今後の道路政策及び道路整備・管理について

兵庫県篠山市

## 1. 重点化を進める上で特に優先度の高い政策

篠山市道のうち幹線及び補助幹線道路については、広範な地域性から依然低い整備水準にとどまっており、今後も積極的な道路整備の推進が必要である。また、生活道路についても改良が必要な区間、箇所が多く残っている。このため、まずは必要な道路財源の確保が図られるべきである。

そのうえで、通学路の安全確保や観光振興につながる路線など地域にとって重要性の高いものから実施できるような制度設計が望まれる。

## 2. 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

国の三位一体改革による地方交付税の抑制等から、篠山市の財政は非常に厳しく、事業中路線の工事継続も困難な状況となっている。また、現在の合併特例による地方交付税も平成22年度から27年度にかけて段階的に縮減（6年間で16億円、これは一般財源の1割に相当する）されることになり、道路の新設はもちろん、維持補修すら困難な状況が迫っている。

限られた財源を地方の実情に即して柔軟かつ有効に活用できるよう、道路財源はこれまでのような「補助」として地方に配分するのではなく、税源そのものを地方に移譲し、地方の自主性、用途の自由度を高めるべきである。

## 3. その他、道路政策、道路整備、管理全般に関する意見

道路財源の用途は、道路整備、橋梁の耐震化、舗装の維持補修等はもちろん、公共交通の利便性向上や沿道の景観形成などに広く拡大していくべきである。

篠山市では、路線バス、コミュニティバス等の再編を検討中であり、例えば、快適なバス停の設置、道路の局部改良、バス運行補助、ターミナル整備、トランジットモール化等に道路財源を活用したい。

また、日本風景街道に指定された地域であることから、電線類の地中化、沿道の広告物、案内看板等の規制・美化、ビューポイント整備、その他アドプトプログラムやツーリズムに関するソフト施策等にも活用していきたい。